



日本テクノ・ラボ（株）
(札幌アンビシャス：3849)

**2020年3月期 第2四半期
決算説明資料**



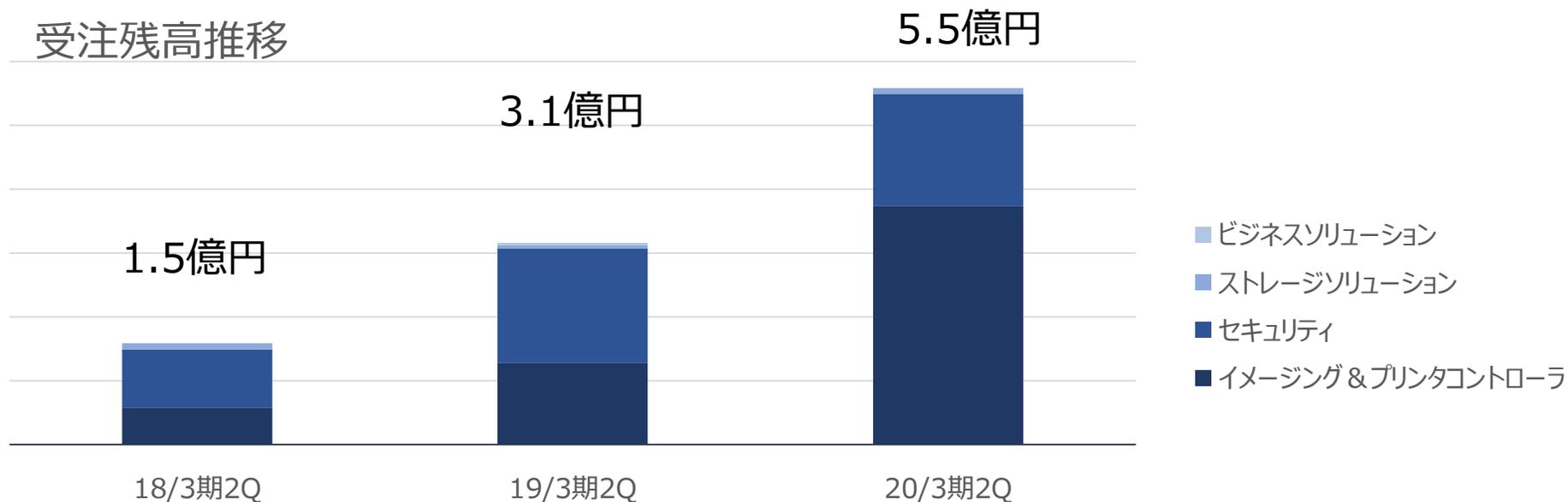
October 31, 2019

<https://www.ntl.co.jp/>

2020年3月期 第2四半期 総括



受注残高は高水準を維持。通期計画達成に向けて順調
大型受注もあり、9月30日時点受注残高 5.5億円



損益計算書サマリー



受注状況順調。案件の大型化により売上計上時期が下期になるため、前年同期比では減収。営業損失は縮小。

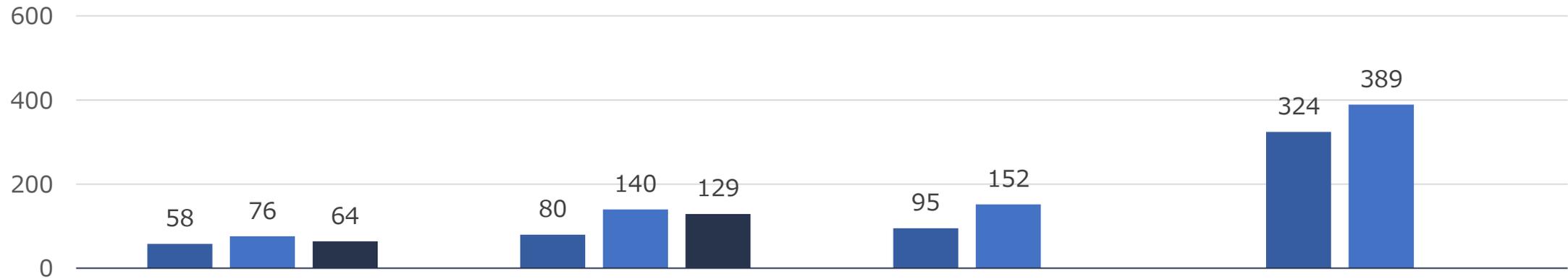
単位：百万円

	2020/3期 第2四半期実績	2019/3期 第2四半期実績	前年同期比較	
			増減額	増減率
売上高	193	216	△23	+56.3
営業利益	△ 33	△59	+26	—
経常利益	△ 32	△108	+76	—
四半期純利益	△ 36	△73	+36	—

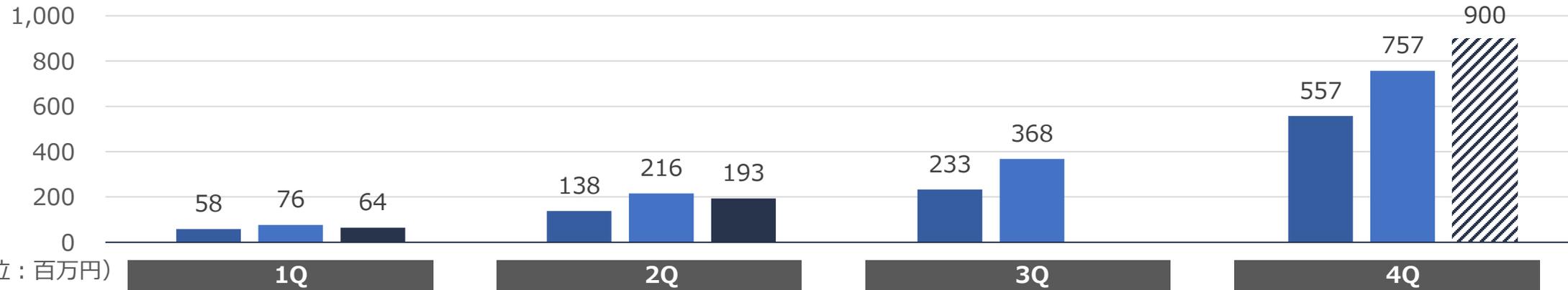
四半期業績推移 (売上高：過去3期比較)

四半期毎の売上高推移

■ 2018/3期 ■ 2019/3期 ■ 2020/3期



累計売上高推移

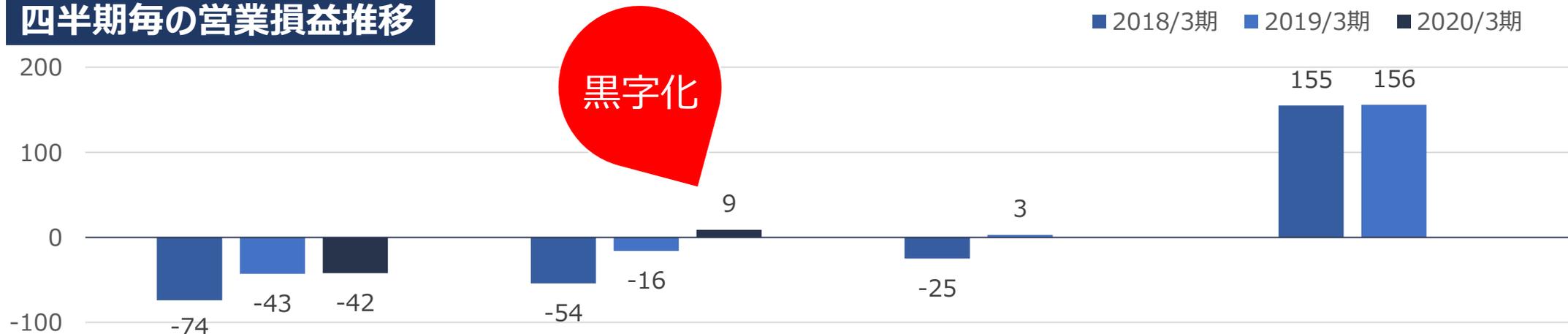


(単位：百万円)

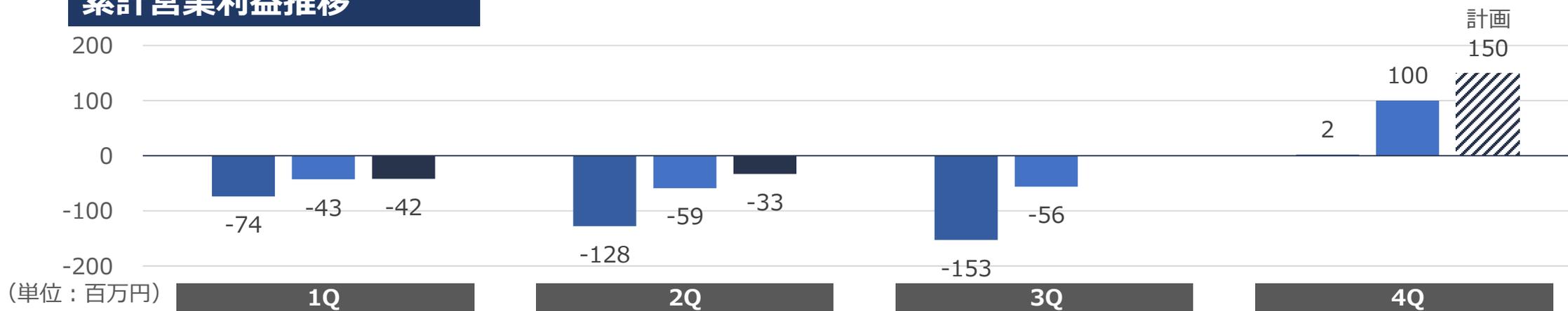
四半期業績推移 (営業利益：過去3期比較)



四半期毎の営業損益推移



累計営業利益推移



セグメント別情報 売上高



セキュリティ好調。イメージング & プリンタコントローラは案件の大型化により下期に売上計上の見込み。

単位：百万円

	2020/3期 2Q		2019/3期 2Q		前年同期比較	
	売上高	構成比	売上高	構成比	増減額	増減率
イメージング & プリンタコントローラ	24	12.8%	85	39.5%	△60	△71.0%
ストレージソリューション	12	6.7%	10	5.0%	+2	+18.9%
セキュリティ	145	75.6%	107	49.7%	+38	+35.7%
ビジネスソリューション	9	4.9%	12	5.8%	△3	△24.4%

セグメント別情報 セグメント利益

単位：百万円

	2020/3期 2Q	2019/3期 2Q	前年同期比較	
	セグメント利益	セグメント利益	増減額	増減率
イメージング& プリンタコントローラ	2	15	△12	△83.3%
ストレージソリューション	△ 17	△16	△0	—
セキュリティ	44	△1	+45	—
ビジネスソリューション	2	1	+0	+15.6%
全社費用				
			△33	△59

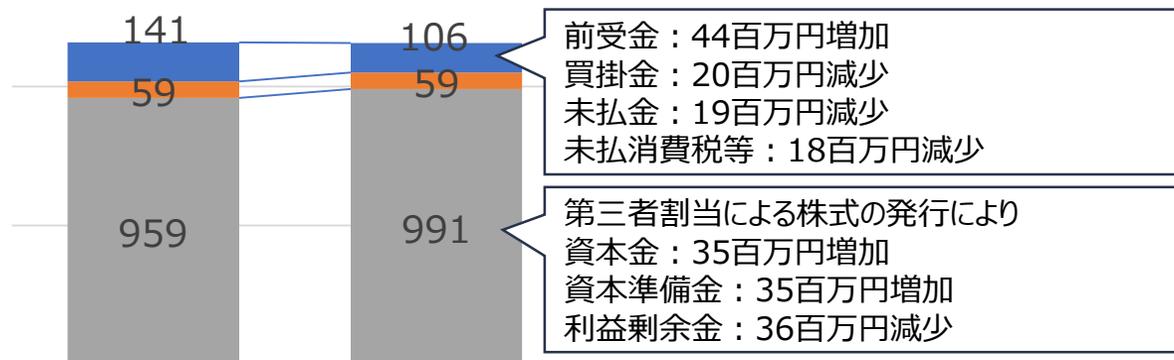
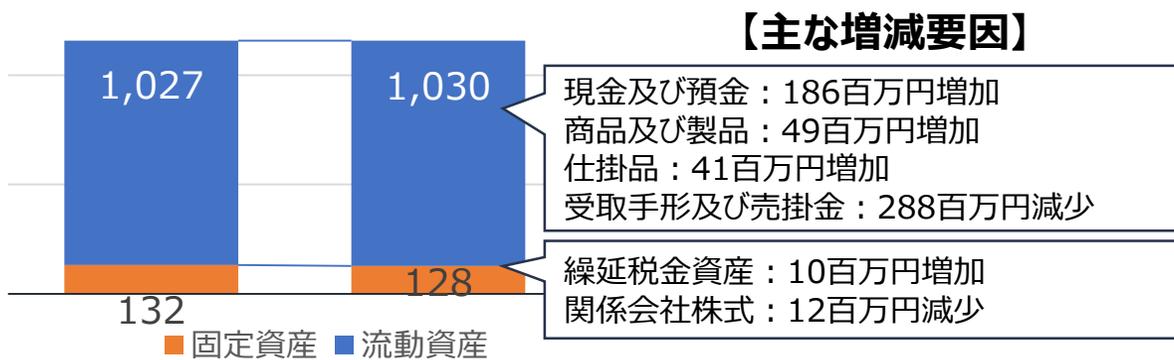
事業領域：セグメント



貸借対照表 / キャッシュフロー計算書

19/3期末

20/3期2Q



■ 純資産 ■ 固定負債 ■ 流動負債

単位：百万円

単位：百万円

	2019/3期 第2四半期	2018/3期 第2四半期
営業活動CF	120	167
投資活動CF	△4	△10
財務活動CF	69	—
現金及び現金同等物 増減額	186	157
現金及び現金同等物 四半期首残高	587	265
現金及び現金同等物 四半期末残高	774	422

イメージング&プリンターコントローラー事業

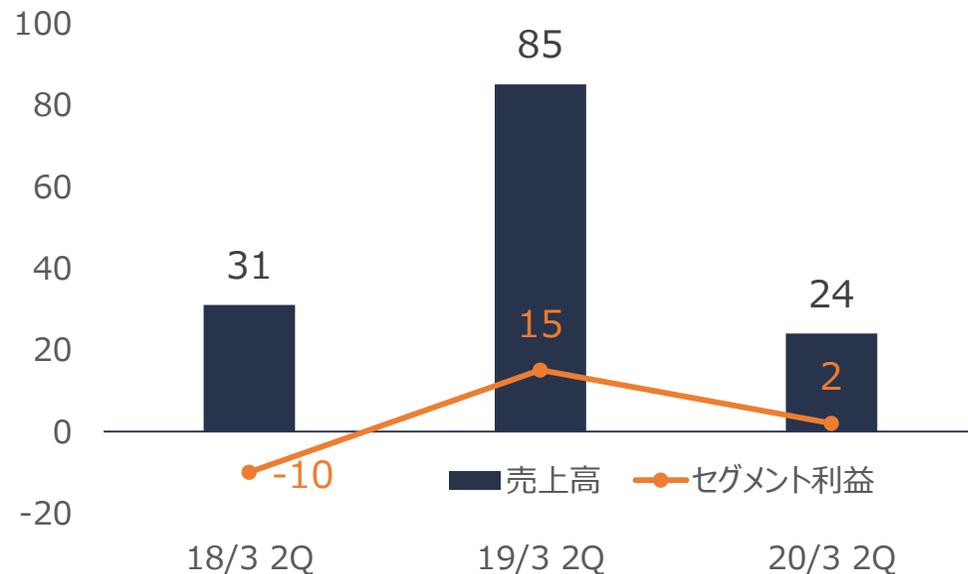


『世界ONLY ONE技術で印刷デザインの多様化、短納期化を支える』

- ▶ 大型案件の受注により、受注残は3.7億円に。
- ▶ 新機能を追加した高速大型インクジェット印刷機用ヘッドコントローラ兼RIPソフトウェアを10月から量産を開始。

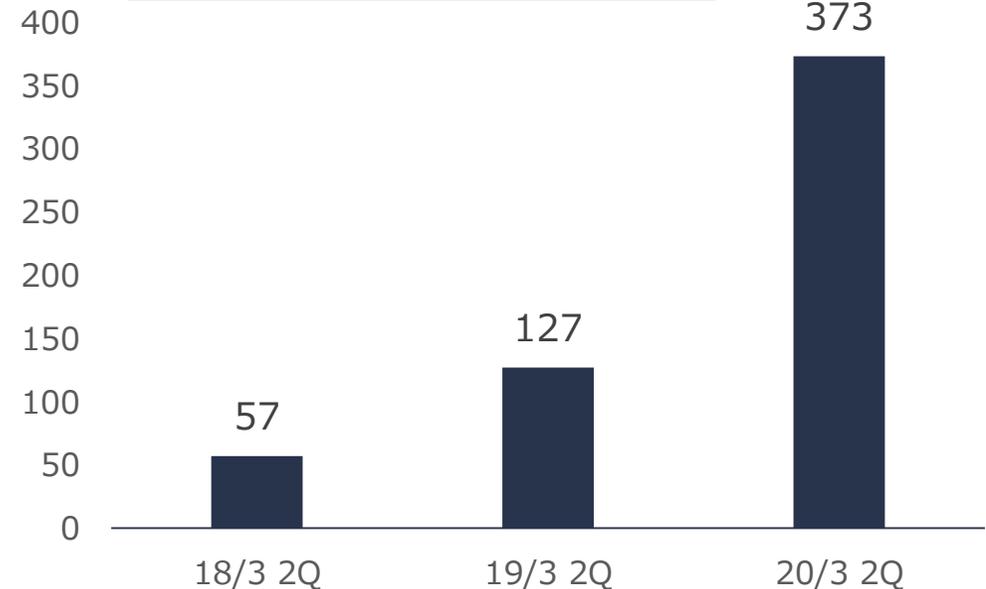
2Q売上高とセグメント利益

単位：百万円



2Q受注残高

単位：百万円



イメージング&プリンタコントローラー事業 事業環境



多品種少量化 → バリアブル印刷ニーズ増大 → 低コスト、高速 インクジェットプリンタ

課題が解決

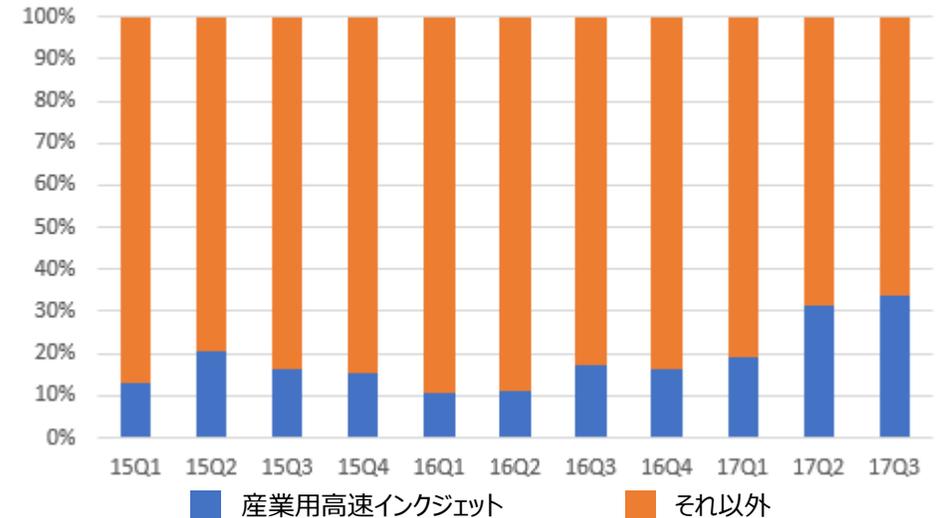
インクジェットプリンタによるバリアブル印刷増加が加速

- ◆ インクの安全性 ⇒ 高機能水性可食インクの登場（花王）
- ◆ 印刷スピード ⇒ オンザフライによる高速印刷技術の確立（当社）

【グラビア印刷とインクジェットプリンタ比較】

グラビア印刷	インクジェットプリンタ
機械高額	プリンタ安価
版下必要（数千万円）	版下不要
異なるデザインは作業停止のうえ版下交換が必要	異なるデザインの連続印刷可能

プロダクションプリンター市場は縮小しているにもかかわらず、2017年第3四半期の高速インクジェットプリンター出荷金額は前年同期比67.7%増の20億6,000万円となり、プロダクションプリンター市場の3分の1を占めるまでに成長。



国内プロダクションプリンター出荷額における産業用インクジェットプリンター構成比、2015年第1四半期～2017年第3四半期（作成：IDC Japan）

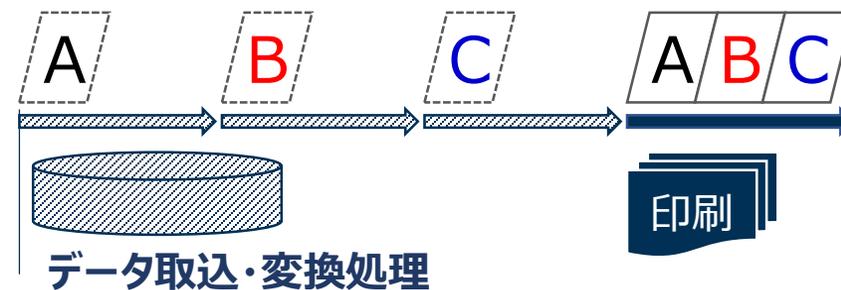
イメージング&プリンタコントローラー事業 技術紹介

Mistralヘッドライバーのオンザフライによる高速印刷がバリエブル印刷を実現。

【一般的なプリンタコントローラによる印刷】

一旦全ての印刷対象データをディスクに取り込み、印刷データに変換、全データの変換完了後にまとめて印刷出力

- 全ての印刷データをシーケンシャルに処理を行う

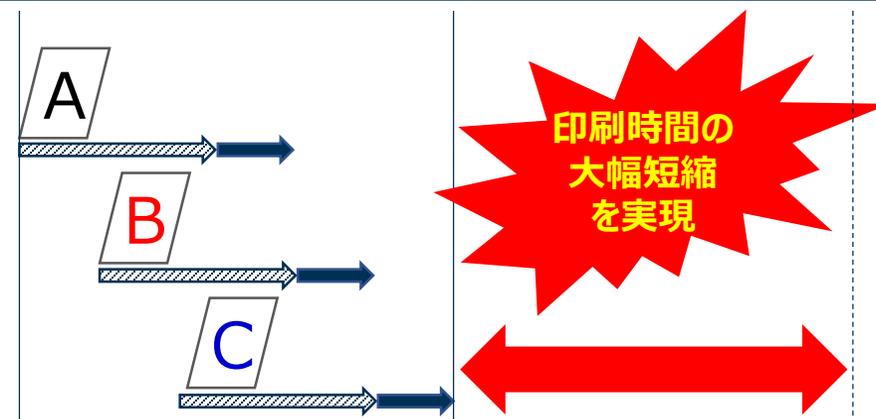


【当社Mistralヘッドライバーによる印刷】

印刷対象データを印刷イメージに変換できると同時に印刷出力するオンザフライ処理により高速印刷を実現

- 各データを並行して処理を行う

印刷解像度1200dpi（1mm²に約2,200個のインク吹出穴）で
1秒間に3mの高速印刷を実現



セキュリティ事業

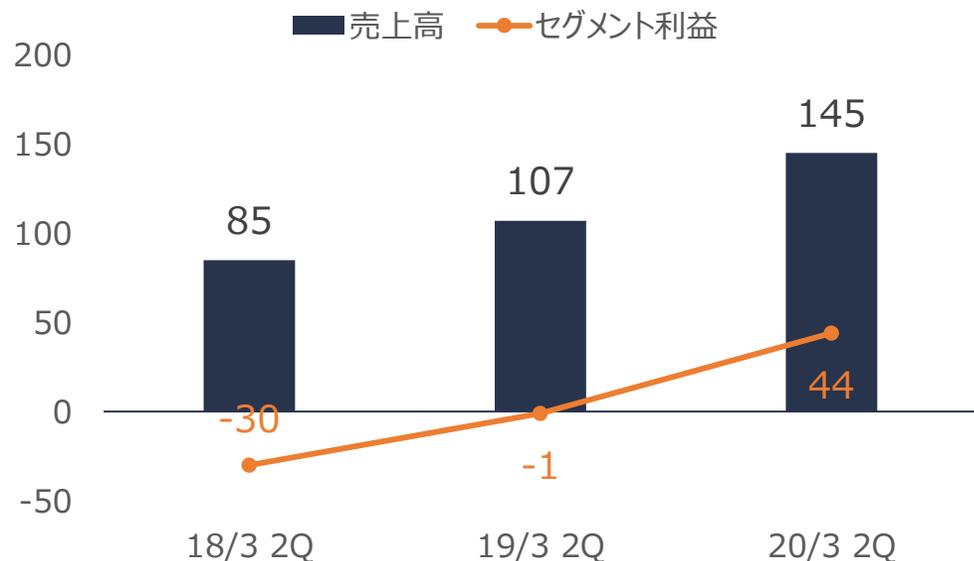


『世界ONLY ONE技術で社会のニーズに応える』

- 情報セキュリティ：中央省庁導入決定。横展開による営業拡大を図る。
- 映像セキュリティ：複数拠点、複数カメラの一括管理ニーズ増加。NECの顔認証技術をビルドインした仕組みなどを中心に海外展開も進行中。

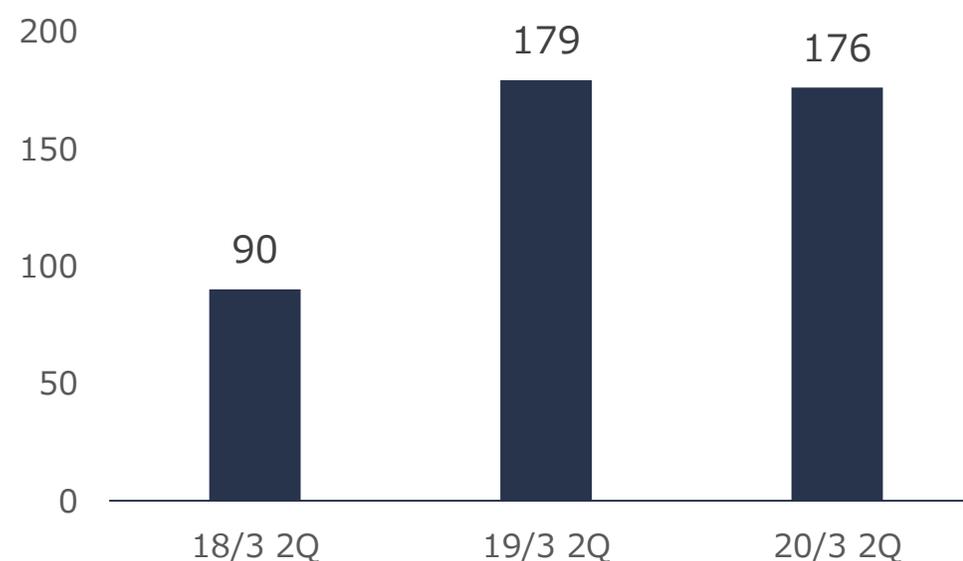
2Q売上高とセグメント利益

単位：百万円



2Q受注残高

単位：百万円

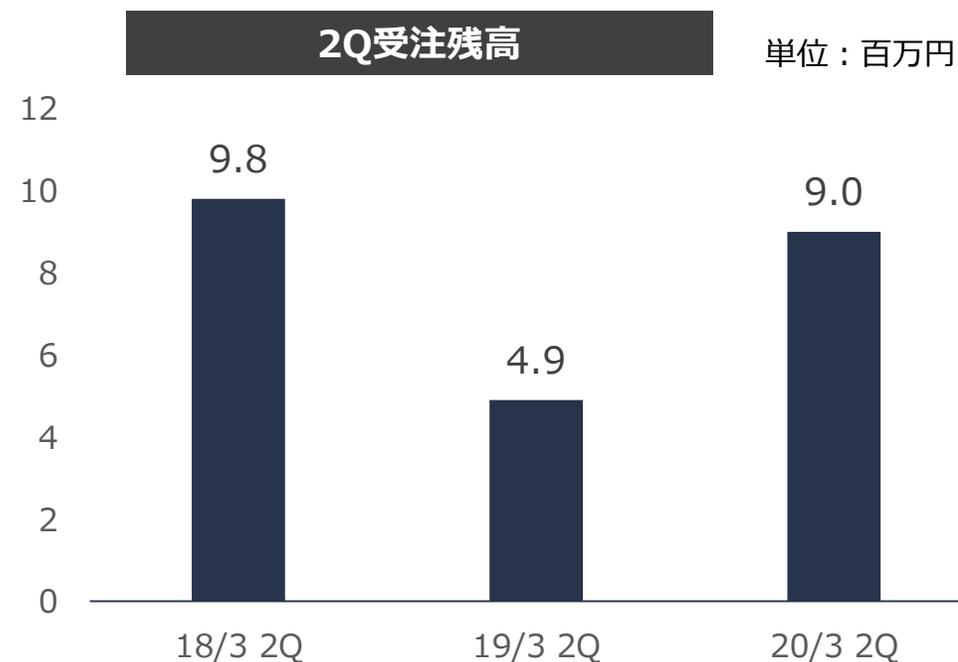
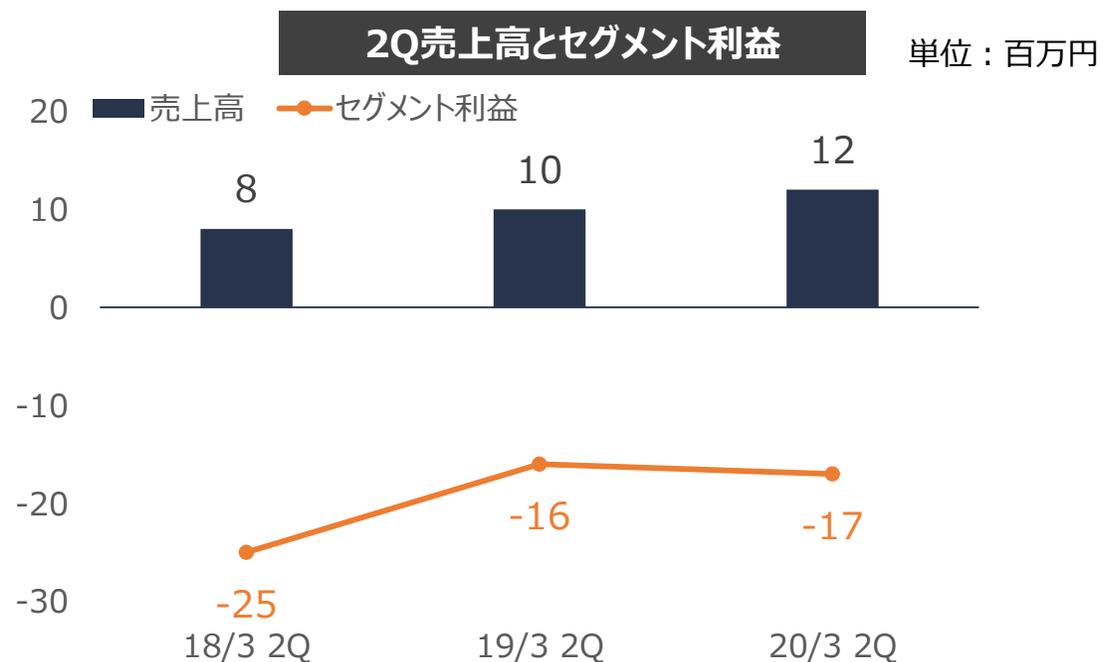


ストレージソリューション事業



『世界ONLY ONE技術でビッグデータ社会をサポート』

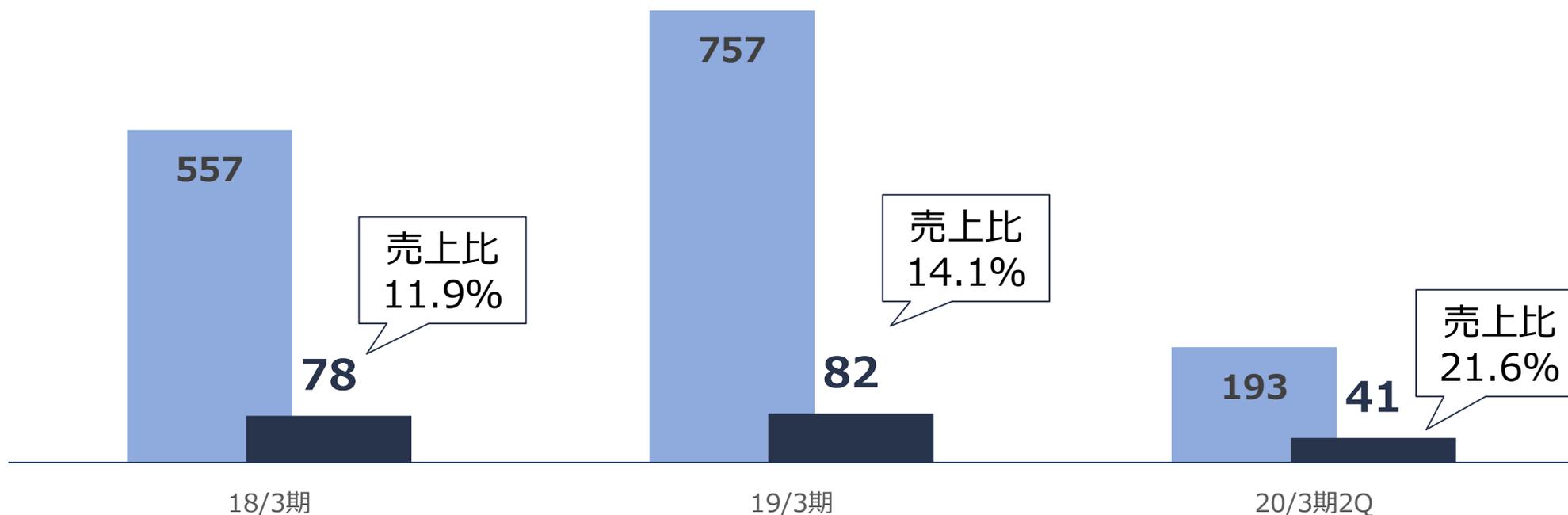
- 省エネルギー、データ長期保存の点で優位性。
- 医療関係、新聞等メディア関係を中心に徐々に拡大中。



将来の収益獲得のため積極的な研究開発投資を継続

■ 売上高 ■ 研究開発費

単位：百万円

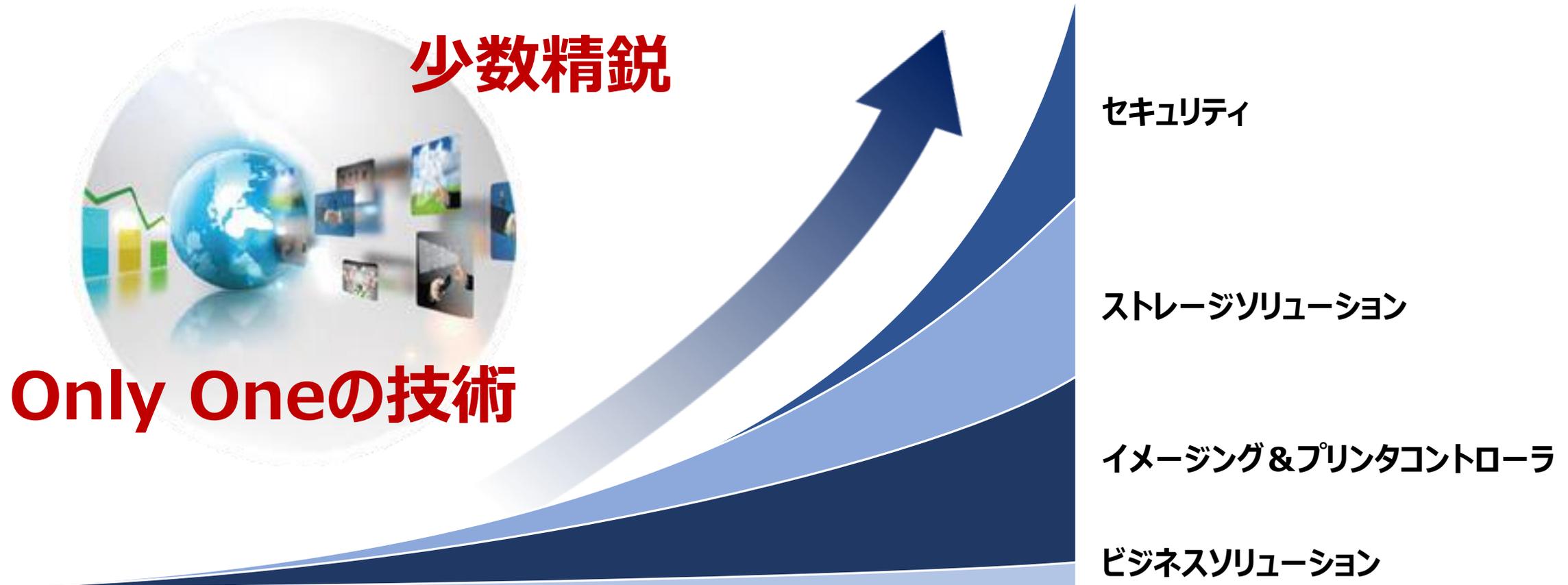


2020年3月期通期業績予想



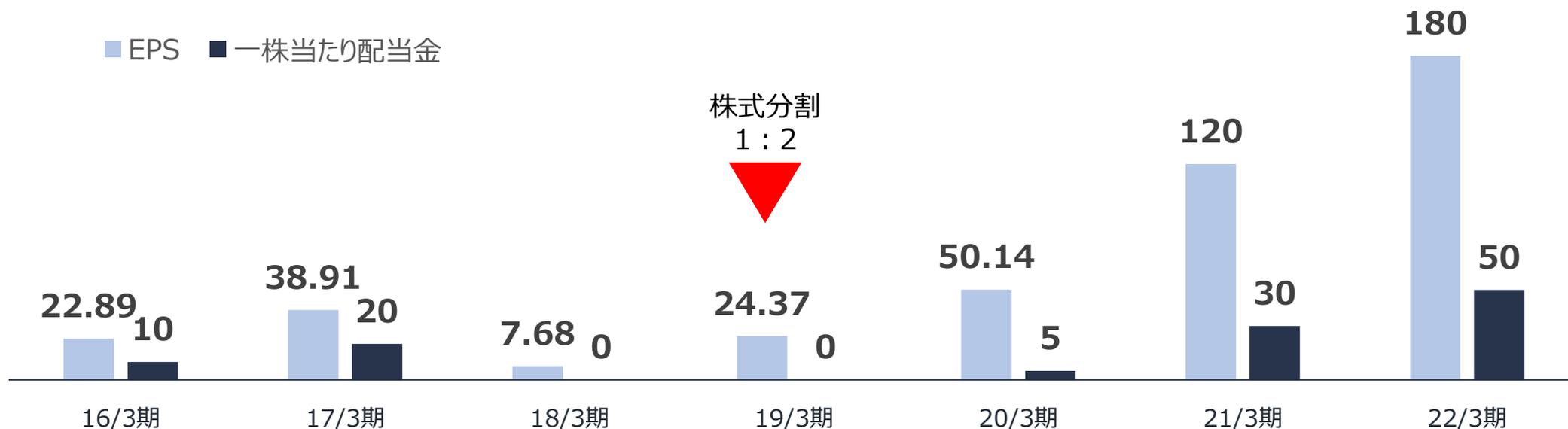
単位：百万円	2020/3期 予想	2019/3期 実績	前年同期比較	
			増減額	増減率
売上高	900	757	+142	+18.9
営業利益	150	100	+49	+48.7
経常利益	150	54	+95	+175.7
当期純利益	80	38	+41	+105.7
一株当たり配当金（円）	5	—		

中期成長イメージ



株主還元

R&Dを重視しつつ積極的に配当も実施。
将来的には配当性向30%を目指す。



※ 当社は2019年4月1日付けで1株につき2株の株式分割を行っております。
2019年3月期以降のEPSは4月1日現在の発行済株式数（1,696,000株）を基準に計算しております。



本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。

本資料における将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。又、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。

又、業績等に関する記述につきましても、信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、安全性を保証するものではありません。

本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、お客様ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任を負いません。

IR連絡先



October 31,2019

<https://www.ntl.co.jp/>